

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902849
法人名	有限会社ハピネス
事業所名	グループホームゆりの花・森崎
訪問調査日	平成 19 年 8 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 28 日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 7 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1471902849
法人名	有限会社八ピネス
事業所名	グループホームゆりの花・森崎
所在地	横須賀市森崎1-13-11 (電話) 046-838-4336

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 29 日	評価確定日	平成 19 年 9 月 28 日

## 【情報提供票より】(19年 8月 8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	22 人	常勤 8 人	非常勤 14 人	常勤換算 5.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	( 鉄骨 )造り
	3 階建ての ( 2 )階 ~ ( 3 )階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 ・ 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要 ( 8 月 8 日 現在 )

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三輪医院 大川歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

看護師を職員として雇い、介護度の高い方にも対応できる体制になっています。ホーム長も歯科医で医学的な基盤があるグループホームです。内科の他、精神科医の定期往診もあります。面会の少ない人には、手がかりになる人を探し出し、お邪魔するときには、手作り野菜をお土産に持っていくなど心配りをしています。職員の研修参加は、研修費、交通費、時給も給与し、積極的に研修参加を応援しています。ホーム長は「横須賀市の連絡協議会」の役員を勤めています。講演会、研修、1泊研修など市の高齢福祉課と連携して、グループホーム同士の交流、情報交換などを積極的に企画し、グループホーム全体の質の向上に日々努力しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義は、管理者から職員に説明され、職員も数項目ずつ取り組みました。昨年の評価結果は玄関にファイルされ、家族や見学者が手にとって見ることが出来ます。今回の結果は、運営推進委員会ともリンクして、活用していきたいと意欲的です。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進委員会は、横須賀市のグループホームをブロックごとに分け、活発に機能しています。市職員、民生委員、町内会の役員も出席し、3ヶ月に1度行われ、すでに5回開催されています。各ホームの見学会や、どういう場合に退去になるのか、また、困難事例を発表しあうなど、皆さんからの意見ももらい、有意義に行われています。議事録は毎回、横須賀市長寿社会課に提出しています。次回からは個別に開くので家族や入居者にも参加してもらう予定です。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎日のケース記録を個別に記載しているため、そのままコピーして、スタッフがコメントを加えて郵送しています。その際に写真、出納帳、全体の様子がわかる予定表、「ゆりの花便り」も同封しています。今までに苦情はなく、何か相談事があれば管理者が聞く体制はできている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の行事がほとんどない地域である。入居者も交えて、ごみ当番をやったり、「ゆりの花便り」を近所に配ったりしています。入居者が、近所の家の庭に入って庭のトマトを取ってしまうなどで謝りに、行き、それがきっかけとなってよい関係になった例もあります。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域や家庭にいる時と同じような生活が出来るように利用者のライフスタイルを尊重したホーム独自の運営方針が理念として掲げられている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回開催されるカンファレンスで理念が実際に実践されているかを確認している。また、日々の引継ぎ等で理念を実践するために話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「ゆりの花だより」を作成し、近所を個別に訪問して渡している。また、ゴミ収集所の清掃をしている。祭りの時は、おみこしがホームの庭に入ってきて、入居者は喜んだ。運営推進委員会には民生委員の役員が参加してくれるが、今後は地元の民生委員との連携も心がけていく。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、会議等で職員から意見聴取を行い、管理者が全体をまとめて作成した。その中で地域との交流が課題となり、ボランティアの受け入れや地域の人の参加も視野にいたれたバーベキューの開催を計画している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀市の運営推進会議の取り組みの一環として、施設見学を実施した。その施設見学で見た他のグループホームの工夫を取り入れ、サービス向上に活かしている。困難事例の発表、工夫などのほか、空き情報も公開して、ヒントをもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横須賀市グループホーム協議会の役員であるホーム長が、横須賀市の担当者との間で絶えず情報の交換・共有をしている。サービスの質の向上にむけて研修会・講演会等を開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、ケース記録をコピーしたものと写真、お小遣帳、コメントを書いてお便りという形でご家族に近況報告を行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時等に意見や希望等をなんでも言ってもらえるような雰囲気作りをしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はあるが、異動は平成17年10月1日の開設以来行なっていない。職員の退職で代わる場合には、利用者、ご家族に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職3ヶ月間は、新人研修としての期間を設けている。法人外の研修を管理者から積極的に呼びかけ、参加する職員には、時給の手当てと交通費等の支給があり、ローテーションにも配慮している。また、法人内での交換研修も行なっている。往診医も医学的な研修や自宅での料理研修を、法人内の3グループホームの職員を集めて開催してくれた。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市のグループホーム協議会に加入し、ホーム長は役員を務めている。その為、他の事業所との繋がりがあり情報交換を行なっている。グループホーム協議会が主催する研修会に積極的に参加し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者本人、ご家族にホームを見学してもらい、それぞれの意向に沿った形のサービスを受けることが出来るかどうか各自判断してもらっている。体験入居を行っており、そのまま入居につながる例が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	人と人の付き合いという観点で、支援する側、支援される側という意識を持たず、感情の変化を共有していくように信頼関係の構築に務めている。外出時に花屋の友人を訪問し、帰りにお花を持ち帰りその花をホームに飾ったりしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの希望がよく聞き入れられている。友人への訪問、1日に何度ものアイスクリームの購入など、本人の希望を受けられるように職員体制などを管理者が工夫している。困難な事なども本人と検討し、最善策を模索している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	毎月1回開催されるケアカンファレンスは、職員に手当てが支給され全員参加で行なわれる。全員参加の中で話し合いが行なわれ、もっとも適当と思われる介護計画の作成を行なっている。また、本人、ご家族とも話し合っている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	新たに見直しが必要と判断した時には、関係者との話し合いの場を設け介護計画の再作成を随時行なっている。3か月に1度の見直しで、変化のない人もカンファレンスは行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。独自の試みとして、本人が会いたい人のところに連れて行き、お店に行った際には店番を一緒にしたり、談笑するのを応援している。自分で育てた野菜をお土産に持っていくように手助けし、本人の要望をかなえている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度、内科医と精神科医に往診に来てもらい、定期的に健康管理をしてもらっている。内科医は24時間オンコール体制で、突発時の相談もできる。なおホーム長は歯科医である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合も看る体制を整えている。看護師を職員として雇い、要介護度の高い利用者にも対応している。家族ともターミナルについて話し合っ書式もあるが、状態変化の場合はそのつど、臨機応援に対応していく。職員もターミナルケアの研修に参加している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	調査日に部屋を見せてもらう際にも、その場で断って本人と一緒に部屋に入った。当日調査員が来るのを緊張して待っていた入居者に、職員は「よろしくお願ひしますね」と、やさしい言葉かけをしていた。その入居者は、昼食事に、御茶やご飯の味加減を気にして、一生懸命もてなしてくれた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に起床の時間は決めておらず、その人のペースに合わせている。お化粧品やアクセサリーの好きな人は、好きなように目いっぱいつけている。洋服を買うのが大好きな人には、バザーに付き添って一緒に選ぶ。アイスにこだわりのある人がいるが、無理にはとめず欲求を満たし、落ち着いてから対策を練るなどの工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日3階の昼食は、ラップにくるんだおむすびで、具のりは自分で選ぶように工夫されていた。おむすびもみんなで作り、食卓のたのしい話題になっていた。職員は入居者と同じものを同じ食卓で食べて、和やかな食事風景であった。2階は、介助を要する人が多くいるが、ゆったりと介助していた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立の人も含めて、見守りの中で入浴している。要介護度の高い人がいるが、介助者3人をつけて週に2回は入浴している。その時間は職員数も多くするなど、入居者側にとって考えている。夕方に入りたいという、自立者の希望もかなえている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご飯作り、食器ふき、花の水やりなど率先してやってくれる人が多い。インコや犬をホームで飼っており、その世話をしてくれる人もいる。オムツをくるむ古新聞を切ってくれたり、排泄表に名前を書いてくれる人もいる。カレンダーもみなさんの手作りである。また新聞は2種とっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は、外に出るように心がけている。近くのコンビニにおやつを買いに行くように誘ったり、4時には散歩に行く決めている人もいる。郵便受けに郵便を取りに行くのを頼んだり、1階の庭にしその葉を摘みに行ったりと、外の空気に触れるようにしている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のドアに鍵はない。のぞき窓もない。居室のドアを開けていおく人もいないが問題はない。玄関の鍵は開けてある。入居したばかりの人は外にでたがるが、とめることはせず、職員がついて行くうちに落ち着いてくる。玄関にはチャイムがあり、出入りはわかるが、職員は常時気をつけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署はごく近くにあり、心強い。消火器の点検にもきてくれている。18年6月に消防署と連携して、避難訓練、救急法訓練を行った。ベルの合図で1階まで降りるのに何分かかるか実演した。避難訓練といっても「トイレに行ってから」「私はいいの」という人がいて、緊急感が伴わなかったため、今後の課題としている。マニュアル、緊急連絡先ある		重度の人も入居していますので、緊急の場合を想定しての訓練をすることが望まれます。運営推進委員会は活発に動いているので、緊急の折には、助けを求められるよう連携していくこと等が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは職員の知り合いの病院のメニューを参考に作っている。食事量、水分量、バイタルチェック表は、詳細に記録されている。水分は、その人の好みに合うよう、お茶、コーヒー、紅茶などを用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のほかに、窓が見える位置にソファーやいすが置いてあり、くつろげるようになっている。玄関周りは広く、好きな人は花や野菜を作りに取り組んでいます。毎月1度、活け花のボランティアが見えて、玄関や食堂に花を活けている。子犬が走り回り、入居者のアイドルになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたベッドを持ち込み、または布団を敷く人もいて、その人の使いやすいようにしている。仏壇、鏡、家族の写真等を持ち込んでいる人もいて、安住の場としている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆりの花
(ユニット名)	森崎 2F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市森崎1 - 13 - 11
記入者名 (管理者)	河辺 雪枝
記入日	平成 19年 8月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆっくり、一緒に、楽しむ、共に築く という事業所独自の理念を構築している。また、運営基本方針も独自に作成している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員ともに、理念の共通認識を高め、確実な実践のため日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域に、理念の理解と実践に伴う協力体制を要請している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設紹介のパンフレット等を作成し、近隣住民や地域への配布を実施。 利用者の外出支援の際は、近隣住民との積極的なコミュニケーションを図っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	該当地域での地域活動が減少傾向にあり、自治会等の参加へは消極的なのは事実である。ゆりの花だよりを作成し地域住民に配っている。		当事業所として、参加の体制は出来上がっている。地域の活性と交流機会の増加を期待している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所として経験やノウハウを持ちながら、地域に波及する機会に恵まれず取組みに至っていない。		地域住民との交流を兼ねた、介護教室やボランティア受け入れ等を検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施以前に、全職員に対し実施の意義に対する理解を促している。 また、下された評価を前向きに受け止め、積極的な改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の実践や評価等の報告を行っている。 また、そこで出された意見や意向を消化しサービス向上への糧としている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と情報の交換・共有を密にし、相互の観点からより良いサービス提供に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、事業者の代表者は研修等参加し、勉強しているが、現状として、職員の理解度は低く、検討や活用が困難な状況である。		今後は事業所内外の研修に積極的な参加を行っていき、適切な制度利用について、事業所全体に波及していく考えである。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基き、事業所独自の虐待防止マニュアルを作成。 研修等に参加し、日ごろから虐待防止への意識を高めている。		虐待の発生しない環境作りを徹底し、職員のメンタルケアなど日ごろから危険性を初期段階で察知するよう努めている。 また、万が一発生した場合は、マニュアルに則り迅速な対応を心掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じた情報開示を行った上で、利用者・ご家族の要望に出来る限りの誠意を持ってこたえている。その上で相互理解に努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が希望する限り、個別に意向を聞き入れる機会を設ける。 また、その意向をカンファレンス等において職員間で共有をし、統一した見解を持ち対応・サービスへの反映へと繋げている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別にお便りという形で、ご家族に近況報告を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クレーム等の対応担当を設け、随時対応出来る体制を整えている。 また、寄せられたクレームを真摯に受け止め、事業所内で共有し、今後の対応に生かすよう努力している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各セクション毎にカンファレンスを定期開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 その意見や提案に対し、運営者・管理者が吟味し反映に繋げている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個々の家庭・家族状況を話し合いの上で理解し、柔軟に対応している。必要に応じた勤務調整に努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要以上の人事異動は行わず、円滑な支援の実施に努めている。 職員の移動がある場合は、利用者やご家族への説明を行い理解を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず、入職より3ヶ月の研修期間を設け。各担当者の下、業務に必要な技術の習得に専念する環境を作っている。又、事業所内外の研修にも積極的な参加を呼びかけたり、ユニット毎の交換研修も行って、職員全体の実践力向上に努めている。		今後は、資格取得に対する支援を検討中である。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と、必要に応じた情報交換を行っている。また、他事業所の主催する研修にも参加をしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減できるよう運営者・管理者が個別に相談を受けられる環境作りを行っている。また、定期的に懇親会を行い、職場から離れた状態でリラックスできるように努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告と所見をもとに職員一人一人を評価している。また、各職員の意見や提案が適切に実現出来るよう努力をしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談時から、利用者本人が抱えているニーズの理解と受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いや意向を受け止め、実践できるよう考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に必要なサービスが提供できるか、事業所の機能・環境・利用者のニーズを考慮した上で判断を下している。必要に応じて、他のサービス情報の提示もおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の見学を通し、利用者本人やご家族の意向に沿った形のサービスを受けることが出来るか、自己決定して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者という関係性以前に、人と人との付き合いという観点を持ち、感情の変化を共有することで、相互の信頼関係の構築に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を共に支えていく者として、適切な距離感を持った関係性を築くよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後に希薄になりがちな関係性を考慮し、利用者と家族が接する機会や行事を提案している。 また、利用者の写真を定期的に送付することで、離れていても身近に感じて頂けるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の意向と自己決定を優先し、馴染みの場所や人間関係を維持できるような外出支援を、出来る限りおこなっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が橋渡しとなり、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了しても、利用時に構築された信頼感が損なわれないよう相談等を受け入れる窓口が出来ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や自己決定を最優先事項と捉え、最大限に尊重できるように努力している。 また、困難な場合は本人と検討の上で、最善策を模索している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活環境や生活歴を考慮し、その人らしい生活が送れるように、最善の努力をおこなっている。入所時には馴染みの物を持って来ていただくようお願いしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムや身体機能・心理状態を総合的に判断・把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者との密な話し合いのもとで、最も適切と思われる介護計画の作成を行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	再検討が必要と判断した上で関係者との話し合いを設け、新たな介護計画の再作成を随時行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細な変化も記録に残し、職員同士で共有した上で、新たなサービスの糸口になるよう検討を行っている。また、それに伴う介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性の理解や活用に乏しいのが現状であり、今後の課題となっている。		事業所の兼ね備えている多機能性の理解を周知徹底し、必要に応じた活用を積極的におこなっていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者本人の必要性に応じた社会資源の選択・提示をおこなっている。また、ボランティアを通じ地域との連携を図っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所と情報交換等の連携を図ることで、必要に応じたサービスの利用・選択をおこなっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じた協働をおこなっている。		現状では密接に関わりを持っていないため、今後関係性を密にし連携を図っていききたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる定期往診を実施。24時間連絡体制。必要に応じた医療の提供をおこなっている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医のホームドクターの定期往診を実施。利用者の治療をおこなうと共に、職員の介護の相談等もおこなっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度のペースで看護職が出勤し、医療面のフォローをおこなっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関の相談室等と連携し、入退院を円滑に行える様に努力している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルの場合、利用者本人とご家族の意向を考慮した上で、必要な期間と連携し適切な対応を検討している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの研修等に職員を参加させ、緊急時の対応やケア等の習得のおこなっている。また、ホームドクターの支援と連携も検討の上確立している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えに伴うリスクを事前に考慮し、リスクを最小限に留めるため必要な情報交換を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いを徹底し、特定の場所以外での取り扱いを禁止している。</p> <p>また、プライバシーやプライドを損ねないような関わりを全職員に対し徹底している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の理解力を見極め、それに合わせた関わりをおこなっている。</p> <p>自己決定権を尊重した支援を心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活背景やその人らしさを考慮し、利用者本位の支援をおこなっている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度、ご本人の希望する理髪店にお連れしたり、お化粧が好きな方は、毎朝お化粧をしたり、アクセサリーをつけたりとおしゃれを楽しんで頂いている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・片付けなど、利用者と一緒にこなっている。</p> <p>しばし、職員が利用者に教わることもある。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>外出した際に、利用者本人が食べたい物などを、職員と一緒に買いに行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握。トイレ誘導を定期的に行い、リハビリパンツやオムツを使わずなるべく自立して頂けるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間にこだわらず、ご本人の入りたいタイミングにあわせるようにしている。 ゆっくりと、利用者のペースで入浴して頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に気持ちよく休息して頂くため、日中散歩やレクリエーション等の活動を増やし、安眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を考慮した上で、洗濯や炊事等の家事や、園芸・散歩など、利用者が楽しみにされている事を出来るだけ提供出来るようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は、本人にお任せしている。 買い物等に行かれる際には本人に支払いをして頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の散歩を日課としている。 個人的にも、馴染みの方やお友達に会いにお連れしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として、お花見・庭園散策・バーベキューなどを企画し、利用者・ご家族・職員を含めた全員で外出をし、交流を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望された時に、ご家族へ電話して頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られたご家族やご本人などと、居室で過ごして頂いたり、ホーム全員でお茶やおやつを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準を理解し、身体拘束をしない利用者との対話と関わりを重視したケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を設置しておらず、玄関等に関しては、夜間のみ防犯のため施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、利用者の所在把握を徹底している。 夜間の睡眠時には1時間後との巡視をおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の身体機能や必要性に応じ、個々に必要な物品の設置と保管をおこなっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期開催しているカンファレンス等で、学習や再確認の機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部研修等に参加し、実践力を高めている。 また、研修の内容をカンファレンス等で全体に波及している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時の対応等をマニュアル化し、緊急時でも迅速に対応できるよう施設内に掲示している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族との連絡を密にし、近況報告や相談等をおこなっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	急変時には、ホームドクター等の医療機関と連携し、迅速な対応をおこなっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・投与方法はファイリングし職員が管理。 投薬変更があれば、記録等を用いて申し送りをおこなっている。 服薬後の様子観察をおこない、異変が生じた場合は、医療機関への方向・対応をおこなっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表を用いて、利用者個々の水分量の確保に努めると共に、オリゴ糖などの排便に効果的な食品の使用をおこなっている。 また、散歩など適度な運動も実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の利用者は見守りにておこなっている。 また、介助の必要な利用者には歯ブラシ・電動式・ガーゼによる拭き取りなどをおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を用いて水分量の確認をしている。医療的な制限のある利用者は、医師の指導の下コントロールしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に1回のインフルエンザ予防接種の実施。カンファレンスや研修等での学習や再確認をおこなっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁などを毎日除菌消毒している。コップや食器類は週に1度のペースで除菌作業をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい雰囲気を作るため、観葉植物や季節ごとの飾り付けをおこなっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が制限無く活動できるような環境作りを目指している。利用者のレクリエーションで作った作品なども展示してあう。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のテーブル以外にも、窓際にソファを置きのんびりと過ごしていただける空間を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具(箆笥・テレビ・テーブル・椅子等)を持ち込んで頂き、住み慣れた環境になるべく近い状況で生活して頂けるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日定期的に窓を開け換気に努めている。 空調を使用し、利用者の過ごしやすい温度を保っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造を活かしつつ、利用者の自立度を維持するための作りになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の理解量に応じた関わりをし、混乱や失敗を最小限に生活出来るよう援助している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用して、家庭菜園を楽しまれている。 また、ベランダでラジオ体操をされる利用者もいらっしゃる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、利用者・ご家族・職員が「ゆっくり・一緒に・楽しむ・共に築く」を理念に、アットホームで安心できる生活の場を目指しております。職員も業務に追われるのではなく、利用者と同じ目線に立ち、共に楽しい生活を送っていきたくと心より願っております。そういった考えの下、現在まで取組み出来上がったホームの雰囲気は是非感じて頂きたいと思っております。開所して二年目を過ぎようとし、今だ模索している部分はございますが、全職員同じ目標に向けて日々努力をしております。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆりの花
(ユニット名)	森崎 3F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市森崎1 - 13 - 11
記入者名 (管理者)	河辺 雪枝
記入日	平成 19年 8月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆっくり、一緒に、楽しむ、共に築く という事業所独自の理念を構築している。また、運営基本方針も独自に作成している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員ともに、理念の共通認識を高め、確実な実践のため日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域に、理念の理解と実践に伴う協力体制を要請している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設紹介のパンフレット等を作成し、近隣住民や地域への配布を実施。 利用者の外出支援の際は、近隣住民との積極的なコミュニケーションを図っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	該当地域での地域活動が減少傾向にあり、自治会等の参加へは消極的なのは事実である。ゆりの花便りを作成し、地域住民に配っている。		当事業所として、参加の体制は出来上がっている。地域の活性と交流機会の増加を期待している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所として経験やノウハウを持ちながら、地域に波及する機会に恵まれず取組みに至っていない。		地域住民との交流を兼ねた、介護教室やボランティア受け入れ等を検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施以前に、全職員に対し実施の意義に対する理解を促している。 また、下された評価を前向きに受け止め、積極的な改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の実践や評価等の報告を行っている。 また、そこで出された意見や意向を消化しサービス向上への糧としている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と情報の交換・共有を密にし、相互の観点からより良いサービス提供に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業者の責任者は、制度についての研修に参加し勉強しているが、職員は、理解度は低く、現状は検討や活用が困難な状況である。		今後は事業所内外の研修に積極的な参加を行っていき、適切な制度利用について、事業所全体に波及していく考えである。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基き、事業所独自の虐待防止マニュアルを作成。 研修等に参加し、日ごろから虐待防止への意識を高めている。		虐待の発生しない環境作りを徹底し、職員のメンタルケアなど日ごろから危険性を初期段階で察知するよう努めている。 また、万が一発生した場合は、マニュアルに則り迅速な対応を心掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じた情報開示を行った上で、利用者・ご家族の要望に出来る限りの誠意を持ってこたえている。その上で相互理解に努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が希望する限り、個別に意向を聞き入れる機会を設ける。 また、その意向をカンファレンス等において職員間で共有をし、統一した見解を持ち対応・サービスへの反映へと繋げている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別にお便りという形で、ご家族に近況報告を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クレーム等の対応担当を設け、随時対応出来る体制を整えている。 また、寄せられたクレームを真摯に受け止め、事業所内で共有し、今後の対応に生かすよう努力している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各セクション毎にカンファレンスを定期開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 その意見や提案に対し、運営者・管理者が吟味し反映に繋げている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個々の家庭・家族状況を話し合いの上で理解し、柔軟に対応している。必要に応じた勤務調整に努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要以上の人事異動は行わず、円滑な支援の実施に努めている。 職員の移動がある場合は、利用者やご家族への説明を行い理解を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず、入職より3ヶ月の研修期間を設け。各担当者の下、業務に必要な技術の習得に専念する環境を作っている。又、事業所内外の研修にも積極的な参加を呼びかけたり、ユニット毎の交換研修も行って、職員全体の実践力向上に努めている。		今後は、資格取得に対する支援を検討中である。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と、必要に応じた情報交換を行っている。また、他事業所の主催する研修にも参加をしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減できるよう運営者・管理者が個別に相談を受けられる環境作りを行っている。また、定期的に懇親会を行い、職場から離れた状態でリラックスできるように努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告と所見をもとに職員一人一人を評価している。また、各職員の意見や提案が適切に実現出来るよう努力をしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談時から、利用者本人が抱えているニーズの理解と受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いや意向を受け止め、実践できるよう考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に必要なサービスが提供できるか、事業所の機能・環境・利用者のニーズを考慮した上で判断を下している。必要に応じて、他のサービス情報の提示もおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の見学を通し、利用者本人やご家族の意向に沿った形のサービスを受けることが出来るか、自己決定して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者という関係性以前に、人と人との付き合いという観点を持ち、感情の変化を共有することで、相互の信頼関係の構築に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を共に支えていく者として、適切な距離感を持った関係性を築くよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後に希薄になりがちな関係性を考慮し、利用者と家族が接する機会や行事を提案している。 また、利用者の写真を定期的に送付することで、離れていても身近に感じて頂けるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の意向と自己決定を優先し、馴染みの場所や人間関係を維持できるような外出支援を、出来る限りおこなっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が橋渡しとなり、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了しても、利用時に構築された信頼感が損なわれないよう相談等を受け入れる窓口が出来ている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や自己決定を最優先事項と捉え、最大限に尊重できるように努力している。 また、困難な場合は本人と検討の上で、最善策を模索している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活環境や生活歴を考慮し、その人らしい生活が送れるように、最善の努力をおこなっている。入居時に馴染みの物を持ってきてくださるようお願いしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムや身体機能・心理状態を総合的に判断・把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者との密な話し合いのもとで、最も適切と思われる介護計画の作成を行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	再検討が必要と判断した上で関係者との話し合いを設け、新たな介護計画の再作成を随時行っている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細な変化も記録に残し、職員同士で共有した上で、新たなサービスの糸口になるよう検討を行っている。また、それに伴う介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性の理解や活用に乏しいのが現状であり、今後の課題となっている。		事業所の兼ね備えている多機能性の理解を周知徹底し、必要に応じた活用を積極的におこなっていききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者本人の必要性に応じた社会資源の選択・提示をおこなっている。また、ボランティアを通じ地域との連携を図っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所と情報交換等の連携を図ることで、必要に応じたサービスの利用・選択をおこなっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じた協働をおこなっている。		現状では密接に関わりを持っていないため、今後関係性を密にし連携を図っていききたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる定期往診を実施。24時間連絡可能。必要に応じた医療の提供をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医のホームドクターの定期往診を実施。利用者の治療をおこなうと共に、職員の介護の相談等もおこなっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度のペースで看護職が出勤し、医療面のフォローをおこなっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関の相談室等と連携し、入退院を円滑に行える様に努力している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルの場合、利用者本人とご家族の意向を考慮した上で、必要な期間と連携し適切な対応を検討している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの研修等に職員を参加させ、緊急時の対応やケア等の習得のおこなっている。また、ホームドクターの支援と連携も検討の上確立している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えに伴うリスクを事前に考慮し、リスクを最小限に留めるため必要な情報交換を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訴えや話しを否定することなく、入居者の目線に合わせて傾聴し対応している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の個性に合わせた声かけや、雰囲気作りを工夫し、散歩や買い物・入浴など希望に応じ対応している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご本人の意思を尊重し、個々の生活リズムに合わせたケアをおこなっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自己判断できる利用者は、自分の好みの服装をしている。又、判断出来ない利用者には、職員が家族の意見などを聞き対応している。月に1回美容師に訪問してもらい、入居者一人ひとりの希望に合わせてカット等をおこなっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	故郷の名産や郷土料理の話などをして、入居者の食が進むよう工夫している。利用する食材と一緒に考え調理、味付けも一緒にしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お誕生会や季節の行事で入居者の好みを聞き提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時に記録を付け、失敗前の誘導を心がけ、失禁時も回りに気づかれないよう配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前のバイタルチェックや、本人の訴え、表情の観察で見極めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の散歩や、食事作り、レクリエーションなどで、会話の工夫をしながら、精神的に落ち着ける様対応を心掛けている。又、疲れた様子が見られた時は、ベッド臥床やソファーにてお茶を飲んで頂くなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が自発的に洗濯物を畳んだり、園芸品に水をやるなどしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所側でおこない、欲しいものがある時には、職員と一緒に買い物に行く。 個人毎に収支帳を作り、領収書を収支帳に付け保管する。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩に出かけ、近隣の住民に挨拶をおこなったりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来る限り実現する様、家族と連絡調整している。 ホーム主催で外出を計画し実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス機を利用し、居室で利用できるように配慮している。 希望のある入居者にはレターセットを用意している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすいよう心掛け、各居室で過ごしたり、リビングで他入居者との交流も深めている。 また、面会時の散歩介助や、行事の参加等のお手伝いをして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約書にも明記されている、身体拘束が必要な利用者は過去にも現在にもいない。 マニュアルで、ケアは十分に承知している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、各居室には鍵を掛けていない。 玄関開閉時にチャイムが鳴るようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	少しの変化でも、職員全員が把握する様記録に残している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は鍵の掛かる棚に入れて必要時、鍵を開けて出している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアルがあり、職員に内容を説明している。 緊急時に対応できている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応はカンファレンス等で、繰り返し確認。緊急時24時間対応の病院に連絡を取る様になっている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防等にお願ひし、避難訓練や救急時の対応など指導を受けている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	月に一度、家族にお手紙を送付し、毎日のフォーカス記録を同封し情報を送っている。 又、情報開示の要求があれば応じている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全体が把握するように記録に残し、申し送りをしている。アレルギーや持病はアセスメントし、個々にファイルしており、職員間で共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧を個々にファイルし、職員間で共有し把握に努めている。 食前・食後の服薬は介助要する人以外は、個々に服用し確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に対しては、水分摂取やオリゴ糖を利用したり、散歩等を心掛けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各利用者の自主性で歯を磨くように促し、口腔ケアが困難な方にはサポートをおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院のメニューを使っている。 又、主治医からのアドバイスを受けている。している。 体調の悪い人はお粥にするなど調整を		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	カンファレンス等でも確認の学習をしている。 又、インフルエンザの予防接種をおこない対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	雑巾の消毒は随時している。 まな板等の調理用具は遅番が毎夕食後に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者が認識しやすいように、ホームの名前が書かれている看板が設置してある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を置いたり、入居者にも馴染みの物を持ってきてもらっている。 天候によりカーテンの開閉をこまめにおこない、職員の声かけのトーンにも注意を払っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士には隣に座って談笑していただいている。 孤立がちな入居者には、自発的に他入居者ごお世話しているのを見守っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用していた家具を居室に持ち込み、その人らしい環境作りに配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホーム内の換気や空調の調節をこまめにおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備の工夫、手すりの設置をおこない、安全確保に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	室内整備に気を配り、居室に愛用していた物を飾るなどして工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで洗濯物を干したり、花壇に花や野菜を植え、草取り・水撒き・収穫をしている。		



. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、利用者・ご家族・職員が「ゆっくり・一緒に・楽しむ・共に築く」を理念に、アットホームで安心できる生活の場を目指しております。職員も業務に追われるのではなく、利用者と同じ目線に立ち、共に楽しい生活を送っていきたくと心より願っております。そういった考えの下、現在まで取組み出来上がったホームの雰囲気は是非感じて頂きたいと思っております。開所して二年目を過ぎようとし、今だ模索している部分はございますが、全職員同じ目標に向けて日々努力をしております。